神奈川自然誌資料(22):25-28, Mar. 2001

山北町における野生哺乳類の交通事故死

山口喜盛

Yoshimori Yamaguchi:
Road mortality of wild mammals in Yamakita-machi, Kanagawa Prefecture

はじめに

近年，丹沢山地の周辺では交通量の増加に伴い，道路の拡幅やバイパスの開設など，交通網の整備が盛んに行われている。

その一方で，道路による野生動物の行動圏の分断化が心配され，横断時の交通事故が日常的に発生している。この野生動物の交通事故は日頃見過ごされ，記録として残されることはきわめて少ない。野生動物との共生が叫ばれる今日において，交通事故記録を収集し分析することは，事故防止対策の検討や生息環境の保全に役立ち，生息状況を知る手がかりにもなるものと考えられる。

筆者は，丹沢山地の西側にあたる山北町において，通勤中に野生哺乳類の交通事故死を度々目撃していたことから（図1），2年間にわたり記録の収集を試みた。調査期間が短いため，詳しく検討するまでには至らないが，車社会の発展がもたらした交通事故によって命を落としている野生哺乳類の実態を明らかにするために，ここに簡単に報告する。

調査地の概要および調査方法

山北町は，神奈川県の屋根とも言われる丹沢山地のおおよそ半分を占め，約90%が森林であることから，現在，33種類の野生哺乳類の生息が確認されており，本州産の哺乳類のほとんどを見ることができる（山口，印刷中）。

筆者は，1997年7月から1999年6月の2年間，丹沢山地と足柄山地の境を流れる酒匂川に沿った国道246号線の向原（山北町と松田町の境）から丹沢湖畔の玄倉までの約16㎞間（図2）で，通勤の行き帰りに交通事故に遭った野生哺乳類を記録した。また，谷峨では，国道246号線と丹沢湖に向かう県道（都夫良野側）を交互に通行するようにし，行きと帰りは別コースになるようにした。国道沿いは，山北駅周辺は市街地で，それを過ぎると酒匂川沿いの急傾斜地になり，河内川に沿った県道沿いは，山間に民家が続き，周辺では田畑が耕されている。

図1. 交通事故に遭った野生哺乳類. 上：ハクビシン，中：タヌキ，下：アナグマ.

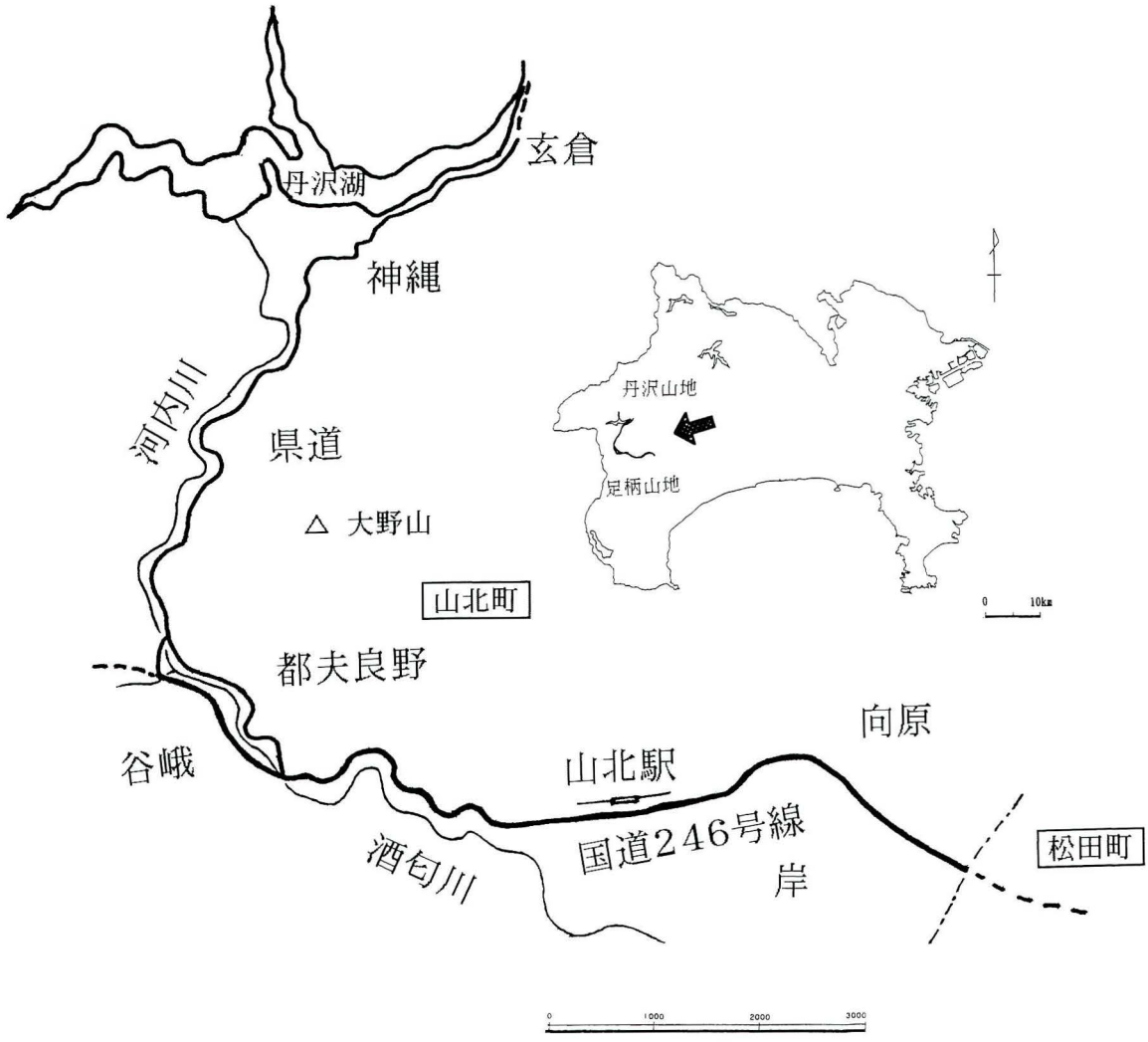

図2. 調査地.

調査結果および考察

2年間で確認した野生哺乳類の交通事故死は，6種23頭であった。その内訳は，多い順にハクビシン10頭，イタチ4頭，タヌキ4頭，アナグマ2頭，テン2頭，キツネ1頭であった。また，月別にみると4月の5種7頭が最も多く，季節的には春に多く，主に早春から夏にかけて発生していた（表1）。

表1. 山北町における野生哺乳類の交通事故例

	ﾊｸﾋﾞｼﾝ	ｲﾀﾁ	ﾀﾇｷ	ｱﾅｸﾞﾏ	ﾃﾝ	ｷﾂﾈ	計
1月							
2月						1	1
3月	1	1	1				3
4月	2	2	1	1	1		7
5月	3			1			4
6月	1						1
7月	3				1		4
8月			1				1
9月							
10月							
11月			1				1
12月		1					1
計	10	4	4	2	2	1	23

交通事故の発生した地点を図3に示した。調査区間内において，ほぼ平均的に交通事故は発生しているようであったが，住宅の密集する山北駅周辺の市街地や神縄と玄倉間では少なかった。市街地で交通事故が少ないのは，野生哺乳類の生息数が少ないことによるものと思われるが，神縄と玄倉間は交通量が少ないことから交通事故に遭う確率が低いものと考えられる。

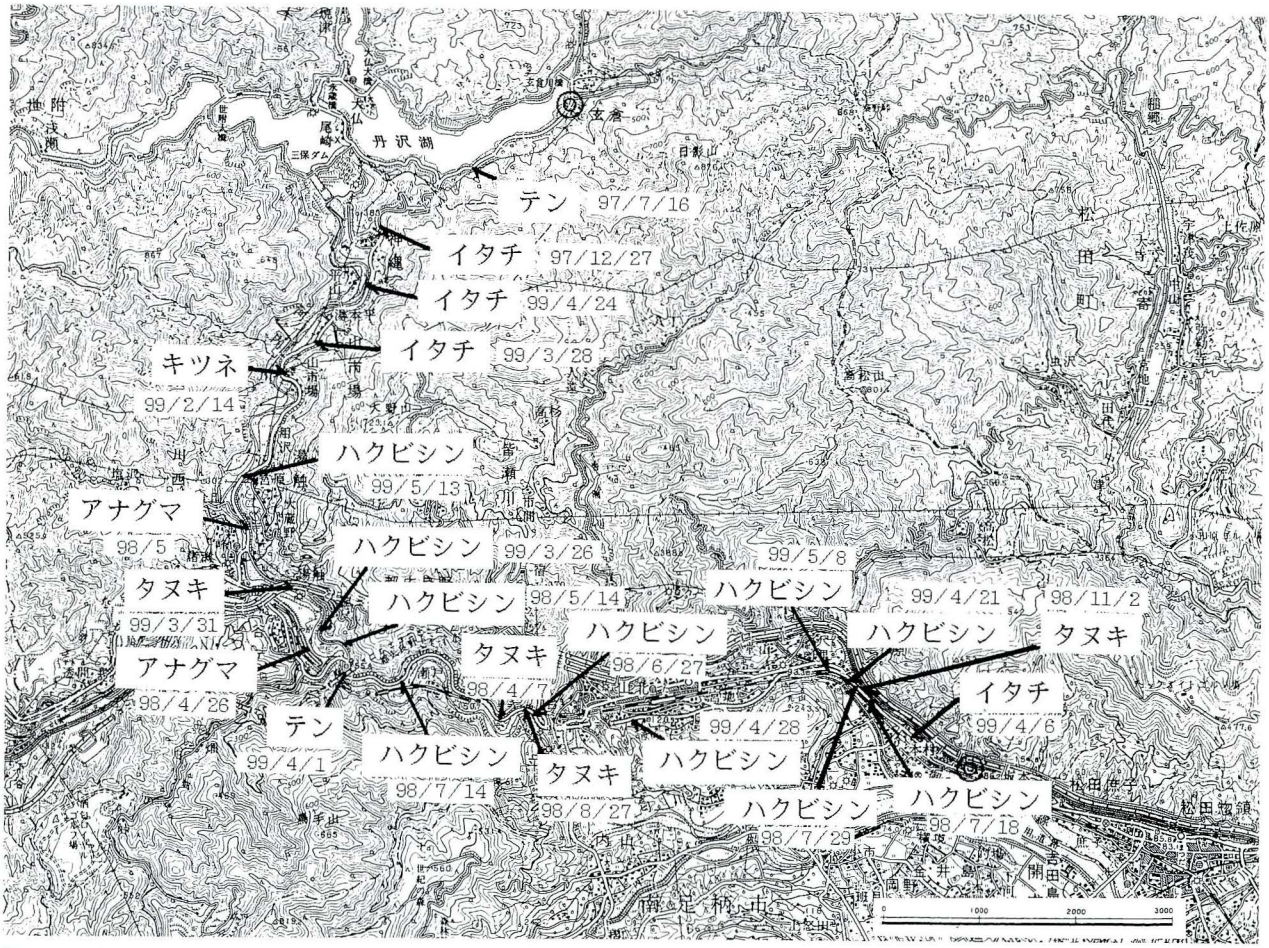

図3. 山北町における野生哺乳類の交通事故発生地点.

国道と県道を比較してみると，発生件数にほとんど差はないが，種別にみると国道ではハクビシンが10頭中7頭，県道ではイタチが4頭中3頭と多かった。このようなことは，ハクビシンが町の方に多く，イタチは山間部や水田のある地域に多いことを示しているものと考えられる。また，向原と岸の間でハクビシンの交通事故が多く発生していたのは，横切っている川は人が歩いてわたれるほど小さく，両側の山が接近しているので，その周辺が両地域を結ぶ通り道になっていたのであろう。

帰路（夕方）に確認したのは，ハクビシンとタヌキの各一例だけであった。ハクビシンは，当日の朝は確認しなかったので昼間に轢かれたものであるが，タヌキは，朝はそのコースを通らなかったので，夜間から早朝の間に轢かれたのかも知れない。他の記録はすべて行路（朝）だったので，ほとんどが夜間か早朝に轢かれたものである。

今回，交通事故死を確認した野生哺乳類は，丹沢山地に生息する中型哺乳類のほとんどの種類であったが，大型・小型哺乳類は確認しなかった。その理由として，大型哺乳類は個体数が少ないことや，運転者が視認しやすいため事故に遭いにくく，小型哺乳類は筆者が見落としていることもあるだろうが，コンクリート壁や側溝などの構作物により，道路を横断する以前に通行が妨げられていることも考えられる。

おわりに

自動車に轢かれた野生哺乳類は，日頃何気なく見過ごしてしまっているが，目撃するたびに記録を付けてみると，あらためて犠牲になっている種類や数の多さを知ることができる。今回，西丹沢の山北町において，わずか2年間という短い期間にもかかわらず多くの野生哺乳類の交通事故が確認されたことから，丹沢山地周辺の他の地域でも同じように多くの野生哺乳類が犠牲になっているものと思われる。このようなことを少しでも減らすためには，交通事故の多い地点や，道路に出るための通り道になるコンクリート壁や石垣の切れ間，歩道や民家のあるところなど交通事故が起きる可能性の高い場所では，動物の飛び出し注意標識の設置や，動物が安全に横断できる道，例えば道路の下や上に動物専用の横断路を設置することなどを検討をすることも必要だろう。野生哺乳類にとって，

道路は交通事故の問題のみならず，横断を避けたり，横断できなくなったりすることから行動圏の分断化が予想される。このことからも，動物が安全に移動するための横断路の確保は重要である。交通標識の効果については疑問だが，運転者が速度に気を使い，周囲に注意することもあるだろうし，道路の周辺に生息する動物の存在に対する意識を啓発することにもなるので，決して無駄にはならないものと思われる。また，道路周辺に動物が集まらないように，餌となるのものを放置しない，間違っても餌付けはしないなど，交通事故を誘発する要因をなくすことも肝要である。

また，今回の調査では確認していないが，山北町ではニホンジカやニホンザルなどの大型哺乳類の交通事故も起きている。大型哺乳類と衝突すれば，自動車に乗っている人間も怪我をするおそれがあるため，よく出没する箇所においては，注意標識の他に飛び出し防止フェンスなども検討したい。

今後は，道路管理者や，動物の保護や研究に携わっている人などが，各地で交通事故記録の収集や分析を実施し，事故の起やすい道路の状況や動物の習性などから原因を究明しながら，対策を検討する必要がある。

引用文献

山口喜盛，印刷中．山北町の哺乳類．山北町史自然編．山北町．

（神奈川県立丹沢湖ビジターセンター）